

茅ヶ崎における関東大震災に関する証言について

須藤 格*

1 はじめに

1923（大正 12）年 9 月 1 日午前 11 時 58 分、相模湾を震源とする大地震が発生し、マグニチュード 7 以上の地震が 5 分間で 4 回起き、関東各地に甚大な被害を及ぼした。

茅ヶ崎でも家屋だけでなく、駅舎や小学校の校舎などを含めた多くの構造物が全半壊の被害を受けたと伝えられている。また、関東大震災が茅ヶ崎に及ぼした被害を伝えてくれる資料として、写真や絵はがきが多く残されている。

地域には、震災を経験した方々が直接体験したこと、見たことなど、地域で語り継がれている「記憶」がある。そういった「記憶」を聞き取り調査した「ことば」は、関東大震災が発生したとき、茅ヶ崎で何が起こり、当時の人々がどのようなことを体験したのかを伝えてくれる貴重な資料である。

2013（平成 25）年 9 月 1 日で、関東大震災の発生から 90 年目を迎える。文化資料館では、2012（平成 24）年 12 月 22 日から 2013（平成 25）年 3 月 17 日まで、特別展「写真とことばが伝える茅ヶ崎の関東大震災」を開催した。同展は、茅ヶ崎の人々がどのように地震という自然災害と向き合い、助け合いながら復興していったのかという様子について、文化資料館で行った民俗学に基づく聞き取り調査、市消防本部に保管されていた震災体験に関する聞き取り調査の資料から震災に関する証言を紹介した。本稿は、関東大震災の概況を特別展の展示構成に沿って再確認し、同展で紹介できなかったものも含めた震災に関する証言を報告するものである。

2 証言の問題点について

報告の前に、証言が有する問題点について言及しておきたい。証言は、関東大震災の体験者の記憶に依拠するものであるが、聞き取り調査行われたのは、震災の発生から半世紀以上たってから行われたもの

である。記憶を歴史資料とする際の問題点として、時間による記憶の風化による正確性の欠如、後に見聞きしたことによる変異、自己の都合のよいものへの変形の可能性といったバイアスがあり、それらは時間が経過すればするほど大きくなる点があげられる。そのため、記憶に基づく証言を歴史資料として扱うことについては、客観的な内容の検証や扱うこと自体へのリスクからこれまで軽視される傾向にあった。しかしながら、関東大震災のように 90 年も前の災害であり、かつ現在のような記録や調査・研究体制が整っていなかったため公的な記録がほぼそのような中で、当地で何が起こり、そして人々はどう感じたのか、受け入れ、復興していったのかを知るためには唯一の貴重な資料であることは明らかである。

市民の記憶に基づく証言が有する危険性を認識しつつ、証言の内容をよく検証しながら、史実との齟齬や乖離もみながら、証言の有意性を尊重し、公的な記録からは得られない、人々の有り様や災害の実態を求めることができる価値ある資料として注目したい。

3 茅ヶ崎における関東大震災の概況

関東大震災に関する記録や書物は多く、本市においても市史等に記録されている。ここでは、発生から復興までを、これまでの記録をもとに展示会で紹介した震災の概況を確認したい。

1) 地震の発生

1923（大正 12）年 9 月 1 日土曜日は、農業を営む人々にとっては月休みであるショウガツ（農休日）にあたり、本市の多くの農家が仕事を休んでいた。また、明け方から強い雨が続けていたため、漁に出た舟はなかった。午前 10 時頃に雨があがってから、真夏のような太陽が照りつけて、厳しい暑さであったといわれている。

地震発生の直前に、当市の西南の方から地鳴りのような、もしくは大地が裂けるような異様な唸りを聞いたと多くの体験者が語っている。その直後に、縦揺れがあり、気が付くと大きな横揺れの中にあった、と言われている。

茅ヶ崎の農家では午前 11 時頃に昼食をとり、しばらく昼寝をした後に午後の仕事にとりかかる。地震発生時刻の午前 11 時 58 分は、多くの農家で昼食を終えていた。

2) 地震の被害

当時の茅ヶ崎町役場の文書によれば、約 2 万人の人口のうち、死者 156 名（男 65 名、女 91 名）、重傷者 61 名、また 3,426 戸の住宅のうち全壊 2,112 戸、半壊 1,207 戸、4 か所で出火したが全焼は 1 戸と記録されている。

大きな建造物では、堤防や道路、橋梁が破損、馬入橋や東海道線の馬入川鉄橋は崩落、茅ヶ崎駅の駅舎や町役場、純水館の製糸工場 7 棟、当時市域にあった 4 つの尋常高等小学校（茅ヶ崎、鶴嶺、松林、小出）の校舎すべてが倒壊した。当日の小学校は、2 学期の始業式の日で午前中に式を済ませ、地震発生時には子どもたちはすでに下校していたが、鶴嶺小学校で 6 年生の男子 1 名が亡くなっている。



倒壊した茅ヶ崎駅の駅舎

市内各所で、道路や田畑での地割れや隆起、陥没、液状化が発生したことを伝える証言が多く残されている。特に、余震の度に広がったり狭くなったりする地割れや、そこから噴き出す泥水に恐怖を感じた人が多くいることが確認できる。

また、津波に備え、松尾では南湖の八雲神社に、南湖では円蔵・鶴が台の北側の赤羽根山に、円蔵では甘沼・香川方面に、平太夫新田では甘沼方面に、西久保では香川方面や堤の浄見寺に避難しているが、「津波は来なかった」と証言されている。一方、「平島（現在の漁港の防波堤）まで潮が引き、国道 134 号あたりまで戻った」という証言や、「相模川をさかのぼった津波により舟が流された」という証言が海岸地域で記録されている。

湿地帯であった柳島周辺では、相模川の流れが変わるほどの地盤の隆起があったことが確認されている。

3) 地震後の暮らし

茅ヶ崎では、幸いにも地震の二次災害となる火災がなかった。しかし、震災後の住環境の悪化で衛生状態が悪くなり、腸チフスが流行した。

震災直後、軍の第 6 師団（熊本）救護班が第六天神社（十間坂）に診療所を設置し、また、日本赤十字社や町内の医師たちも救護活動をした。診療所は 190 日間開設され、682 名を診療した。

また、余震の回数は日が経つにつれ減っていったが、多くの人が庭先に作った掘立小屋で 9 月中旬まで過ごした。その間に倒壊した家屋の材を用いてバラック（仮屋）を造り、同月下旬頃から半壊の家屋の修理が始まった。

また、震災の混乱に乗じ、様々な流言（デマ）が広まったので、警戒のため地域単位で自警団を組織し、集落入口に見張番をたてたりした。震災から 1 週間後、軍の歩兵第 49 連隊（甲府）第 7 中隊が戒厳令による警備のため茅ヶ崎に到着し、これにより流言もなくなり、平静を取り戻した。警備部隊は 10 月 11 日には引き上げたが、憲兵分遣所が置かれ、騎乗憲兵が町内を巡回したため、多くの人が安心したといわれている。なお、当地には巡査駐在所しかなかったが、10 月には警部補派出所が設置された。

地震による地殻変動としては、地中より旧相模川橋脚が出現したほか、海岸一帯の地盤が隆起した。また、満潮時に海水が流れ込んでいた柳島の低湿地が隆起し、以後、耕作可能な土地となった。土地の

隆起は南湖、中海岸、小和田といった地域でも確認され、また海岸付近も隆起により砂浜が拡張した。



震災後に建てられたバラック

4)復興

地震による応急の罹災対策は、人口が密集していた新町（現在の新栄町・元町・共恵・幸町）・南湖地区で急がれた。茅ヶ崎町では9月4日までに被害調査を行い、6日には町会で食料の供給を決議し、米や麦、砂糖、食塩などを分配した。

一方、東京・横浜などの方面から避難してくる人は日ごとに増え、最終的に383世帯、1,523名に達した。茅ヶ崎を通過する避難者のために、十間坂の煉瓦場を仮宿泊所として提供し食糧を支給した。

また、バラックの建設や倒壊住宅の修理用に、トタン・板・釘などの建材が大量に供給された。衣類・日用品も配給された。

復興事業で特筆されるべきことは、馬入橋の架橋工事のために京都から来た工兵第15・第16大隊が、倒壊した茅ヶ崎小学校を宿营地としたため、工兵たちは架橋工事とともに仮校舎3棟の建築を行ったことである。

町役場は地震発生から2年後の1925（大正14）年に竣工し、これと前後して市内の小学校の再建工事も進められ、1926（大正15）年にはほぼすべての小学校の校舎の建築が完了した。小出村では、小出小が1923（大正12）から、村役場は翌年から再建が行われた。

馬入川鉄橋の再建は鉄道省により行われ、1923（大正12）年10月21日から東海道線の運転が再開された。また、馬入橋は、工兵隊により同年10月4日に

仮設の人道橋が架けられ、1926（大正15）年にはそれまでの木造のものに替わり、新たにコンクリート製の橋が架けられた。

なお、震災に伴う海岸一帯の隆起により、小出川、千ノ川の流路は大きく変わり放流口がなくなったため、河川改修工事が1925（大正14）年から1927（昭和2）年にかけて行われた。

震災復興のための財源は、長期返済の借入金を財源としたため、国や地方の財政状況は不安定な状態となった。そのような不安を抱えたまま、農産物価格の暴落、漁業の不振といった昭和恐慌の経済問題に対処することになったのである。



工兵により架けられた馬入川仮橋

5)祈り

関東大震災によって、茅ヶ崎町では156名の方が亡くなられた。その原因の多くが、住宅の倒壊によるものであった。当時は、茅葺屋根の木造住宅が多く、茅ヶ崎町の住宅3,426戸のうち半数を超える2,112戸が全壊し、ほかに1,207戸が半壊しました。関東大震災の記憶をとどめ、亡くなった方々への祈りを込めた供養碑が市内9ヶ所の社寺境内に建てられている。

表1 茅ヶ崎市内の震災供養碑一覧

正覚院（堤）	海前寺（本村）
宝蔵寺（行谷）	善福寺（柳島）
三島神社（萩園）	神明神社（松尾）
松尾神社（今宿）	金刀比羅神社（南湖）
熊野神社（小和田）	



熊野神社（小和田）

4 さいごに

茅ヶ崎における関東大震災の影響を検証しようとしても、地震の実態に関する歴史資料は多くない。震災の公式記録である『関東震災誌』（内務省, 1926年）や『神奈川県震災誌』（神奈川県, 1927年）において概況には触れられているものの、地域の罹災状況についての詳細な記録が残されていない。人的・物的な被害が甚大であった東京・横浜方面の研究が重視されてきたためか、それ以外の地域の記録はあまり集められてこなかったといえる。

本稿では過去の記録が少ない中、震災を体験した方々からの聞き取り調査で得られた証言である「ことば」を報告した。

人の「記憶」は、時間とともに風化し、後に見聞きしたことによって記憶の内容が変わってしまい、その正確さを欠いてしまうことは否めない。しかし、地域の歴史において重要なのは、その実態を明らかにすることであり、人々が語る地域の記憶は欠かすことのできない貴重な資料である。本稿で報告した「記憶」である「ことば」は、市民の方々の協力を得て記録したものである。人々の「くらしの記憶」を記録・保存し、次世代に伝えることが地域博物館と学芸員の責務であると考えます。

参考文献

- 『茅ヶ崎市史 2』茅ヶ崎市, 1978
- 『茅ヶ崎市史 4』茅ヶ崎市, 1981
- 『茅ヶ崎市史 5』茅ヶ崎市, 1982
- 『茅ヶ崎むかし語り』茅ヶ崎市, 2002
- 『ちがさきの関東大震災』茅ヶ崎市, 2012
- 『柳島生活誌』茅ヶ崎市教育委員会, 1979
- 『南湖郷土史』茅ヶ崎市教育委員会, 1986
- 『震害調査報告』復興局, 1927
- 『神奈川県震災誌』神奈川新聞社, 1983
- 『としよりの話』あしかび郷土史研究グループ, 2000

*茅ヶ崎市教育委員会社会教育課文化財保護担当
(学芸員)

凡例

本稿にて紹介する証言は、証言者の発言を可能な限りそのまま掲載したが、一部読みやすさの観点から要旨のみ示した。

また、証言された地域や場所を示し、内容により要素を下記のとおりとした。

- －予兆：地震の発生の予兆と捉えたもの
- －発生：地震の発生に関するもの
- －被害：家屋、橋梁といった建造物の火災や崩壊に関するもの
- －死傷者：震災による人的被害に関するもの
- －地殻変動：地震の地殻変動の様相や被害が確認できるもの
- －津波：津波に関するもの
- －くらし：地震後の人々のくらしに関するもの
- －デマ：震災後、当市域にて流布した噂等に関するもの
- －救援：被災者の救出、食糧の支援等に関するもの
- －復興：建造物やくらしの復旧に関するもの

	場所・地域	証言	証言要素
1	萩園	萩園橋の下で魚が手づかみでバケツに何杯もとれた。	予兆
2	小出川	地震の2時間位前、小出川は濁り、魚の姿は見えなかったものの投網でナマズなどが大量にとれていた。	予兆
3	小出川	前日に小出川にかいほしに行った。ウナギやフナがたくさんとれてしまい気持ち悪い程だった。	予兆
4	茅ヶ崎	地震の前日小出川で魚(ナマズ)がバケツに2杯ぐらい捕れた。	予兆
5	茅ヶ崎	田圃でうなぎやフナがたくさん捕れた。1日の日にも父がバケツへ一杯フナを捕ってきた。	予兆
6	茅ヶ崎	地震直前「河原橋(現柳島小学校付近)を渡りかかった頃、海に水柱が立ったので父親と不思議がったのを覚えている。また大揺れの後壊れた橋の上に、イナ(ボラの幼魚)が跳ね上がっているのを見た。	予兆
7	西久保	地震の起こる前、何かごうという音がして強い風が吹いてきた。	予兆
8	萩園	その日村の若者や子供たちは、朝から小出川に魚取りにいていた。というのは、小出川に大きな魚がたくさん浮いていると誰いうとなしに村中に伝わり、行ってみるとその通り、コイ、ナマズ、ウナギ、フナなど大小さまざまの川魚が掻き寄せるほどに浮き上がっていた。ところが、突然の大地震にあわてた人々は兩岸の土手から転げ落ちて、なかなか上れなかった。	予兆
9	赤羽根	西瓜の取入れ中に地面が揺れ出し番小屋の柱にしがみつて揺れを凌ぎ、作業中の妻と父親が西瓜の蔓にしがみついていた。	発生
10	赤羽根	知り合いがいる地区の夏祭り(9月1日の本村八王子神社の祭礼?)に誘われて、自転車に土産西瓜2ヶを積んで出かけたが、途中で地面が揺れ出し転倒、折角の西瓜も割れてしまい、自転車を押してゆくうち揺れが収まった。自宅に戻ると、母屋は半壊で、手直してどうやら住むことが出来た。	発生
11	赤羽根	縦揺れがひどく田畑が波打っており、大山街道で自転車に乗った人が倒れて転げ回っていた。	発生
12	赤羽根	秋蚕の世話で立ち働いていると大揺れが始まり、「蚕が棚から落ちないように注意せよ…」という父親の声を覚えている。	発生
13	赤羽根	何が何だか分からず川に落ちぬよう木にしがみつくのが精一杯だった。	発生
14	円蔵	急にドーンと音とともに揺れた。	発生
15	円蔵	横に揺れてから、こんどは上に突き上げられるような揺れで、立ってられないほど強かった。	発生
16	円蔵	最初ドンときて上下に揺れ、それから横揺れがひどく立っても座ってもいられず転がり落ちるようにして縁側から庭へとびだした。庭では父と2人でごろごろ転がっていた。	発生
17	円蔵	座敷にいたが自然に廊下まで出されてしまって、それから庭の植木場に放り出されてしまった。	発生
18	円蔵	店にいてお客さんに梨を売っていたときに地震があり、横揺れがあつてそのはずみに2人して外に飛び出してしまった。	発生
19	小出	所用で牛車を牽いて茅ヶ崎駅に向かう途中であった。千ノ川に架かる梅田橋まで来た所で、牛が止まってしまい、橋を渡ろうとしなかったため、土手上の柳の木に手綱を結び、妻の作った弁当を食べていた。その時、大きな音とともに大揺れがきて川の中に振り落されそうになり、必死になって土手の草を掴んでいた。地震が縦揺れか横揺れかは覚えていないが、草を掴みながら対岸をみたら、対岸がのしかかってくるような感覚があった。その時、当時23歳の妻は自宅の母屋の中にいたが、台所の障子がトントンと母屋から3m位離れている裏庭の池まで飛んでいく様子を目撃した。	発生
20	小出	勤務していた学校の生徒たちと藤沢の大庭神社で参拝中であった。雨が止んだ後非常に暑くなり、湿った風が吹いてきた。最初は「ドスン」と上下方向の揺れが5～6秒続き、その後左右に揺れて立っていることができず、生徒たちも皆転がされていた。地面からは地鳴りが聞こえていた。	発生
21	小出	南西方向から爆発のような音が聞こえ、数秒後裏山の木々がザーザーと鳴り響きものすごい勢いで横に揺れ出し北東側へ進んで行った。	発生
22	小出	鈍い轟音とともに、縦揺れと横揺れが同時にきたようで、柱に掴まったがすぐにはじき飛ばされた。這いつくばって庭の堆肥の上に乗ったが、舟に乗っているようだった。	発生
23	小出	最初は轟音とともに山間に作付けされていた水田の稲が、ザワザワと音を立てて上下振動から始まり、大きく横揺れに変化した。	発生
24	小出	昼食後に横になっていたところ、初めは上下に揺れ、後になって横に揺れた。それは言葉では言い表せないほど恐ろしかった。	発生
25	小出	奉公先の配達の中で、自転車にリヤカーを付けて走っていたが、縦横にひどく揺れて自転車から飛ばされてしまい、脇の田に落ちた。	発生
26	小出	地震後しばらくして裏山に山芋を掘りに行くと、山芋のほとんどが半分に折れていた。	発生

	場所・地域	証言	証言要素
27	小出	地震と気がついた時、山林の木々が渦巻き、野鳥が舞い上がるものと地面に降りて数羽ずつ身体を寄せ合うものがいた。	発生
28	小出川	横揺れ縦揺れの後、小出川が40cm位増水したのと、熊澤醸造の作業所がばたばた倒れていくのを見た。	発生
29	小出川	川の中で魚を取っていたらドスンと大きな音がして体が上下左右に揺れ、ひっくり返ってしまった。そうしているうちに堰や土手が崩れ水が流れ込み、揺れが激しく起き上がれずおぼれそうになった。	発生
30	下寺尾	自宅近くの田んぼの堀で、友人3～4人とウナギ取りをしている最中であつた。遠くの方から「ガーッ」という音が聞こえたと思ったら、急に立ってられない程の横揺れと上下の揺れが来て、その場に横になってしまった。	発生
31	松林小	揺れ出して間もなく倒れたが、校舎(当時は小さい木造平屋が2棟)は一方からよれるように倒れた。倒れた下から「助けてくれ」と叫んでいるので行ったら、先生だったので、瓦をはいで、はさまっている片腕を外して助けた。倒壊の時は土ぼこりであたりが見えなかったという。	発生
32	芹沢	当日は朝から雷が2～3時間鳴り続いて雨も降り、10時頃に止んだ。昼頃に江ノ島の上空辺りから、今のジェット機のような音が聞こえ、20秒位してからグラグラと揺れた。	発生
33	高田	家の中で畳の上に座って子供二人にしがみつかれていると、一度傾いた家が次の揺れで旧に復した。家族皆が無事で、一晚10回ほどの余震のたびに竹藪に避難した。高田も傾いた家が多かった。井戸杵がずれたものの、少し濁っただけで水量は元のままで、これも支障はなかった。	発生
34	茅ヶ崎	大きな横揺れが急に来て、食事の中のちゃぶ台に壁土がどさっと落ちてきた。	発生
35	茅ヶ崎	昼食を食べ、母と庭で芋の皮をむいていた。立ってられず、桃の木にしがみついた。父たちは昼寝をしていた。寝たまま外に放り出され、その直後に家が倒壊した。	発生
36	茅ヶ崎	海がしけていたので11時頃に食事を済ませ、土間にむしろを敷いて昼寝していた。	発生
37	茅ヶ崎	海の波と同じように揺れた。	発生
38	茅ヶ崎	2日間くらいは舟に乗っているようだった。	発生
39	茅ヶ崎	地鳴りは、海の沖の方でした。	発生
40	茅ヶ崎	地鳴りは、南の方から聞こえた。	発生
41	茅ヶ崎	地鳴りは、平塚側からした。	発生
42	茅ヶ崎	地鳴りは、大山の方からした。	発生
43	茅ヶ崎	祖母が安政の大地震を経験していたので、外へ出ると教えてくれた。	発生
44	茅ヶ崎	父が囲炉裏に火をおこしてフナを焼いていたので、バケツで水を2杯くんで消してから、お父さんに外に出るように言ったが、父は『外に出れない。』と言った。	発生
45	茅ヶ崎駅	貨物列車の入れかえ作業中で、旗を握ったまま、線路の上をころがった。あとは覚えていない。	発生
46	茅ヶ崎駅	茅ヶ崎駅に勤務していたが、海の方からゴーという音がし、そのうちグラグラとした。その時、貨物列車の入れ替え中で赤旗と青旗をにぎったまま線路の上をころがった後はおぼえていない。	発生
47	堤	雨が止んだ後、熱っぽくなり、湿った風が吹いてきたらグラッときた。あれが前知らせだったのだろう。	発生
48	行谷	自宅の台所で昼食をとっていた。食事中に家が大きく揺れると同時に「ギシギシ」と音を立て始め、屋外では木々がざわめいていた。舟に乗っているような状況だったので立って歩くこともできず、這いずって外に出て垣根に掴まって竹藪に避難した。大正8(1919)年に新築したばかりの家では梁の一本が壁を突き破っていた。近所の善谷寺の本堂が倒壊した瞬間には、ものすごく大きな音が聞こえた。	発生
49	南湖	すごい勢いで最初上下に揺れ、そして左右に揺れたため、家の中から外に出るまでの間、踊っているようで地に足が着かなかった。	発生
50	南湖	犬も立ってられず、腹這いになっていた。	発生
51	南湖	自転車のハンドルをとられたので止まって東海道線の鉄橋を見ると、崩れ落ちるのが見えた。	発生

	場所・地域	証言	証言要素
52	南湖	急に天気が良くなったので、海岸で網の整理をしていた。すごく揺れて立っていることができなかった。少しおさまって地震かなと思った。北側を見たら、家の倒れる音と倒れた時の埃等が、煙みたいにすごく上がっていた。	発生
53	南湖	『あれよっ』と叫ぶ人々の声とともに、私も地を這っていた。床屋の床がまるで籠をつるしたように、揺られるままに動いていた。姿見の鏡が、揺れ動くたびに壊れ落ち、地獄のありさまであった。	発生
54	南湖院	南湖院へ卵を配達中に敷地内で地震に遭遇し、道路で転げまわってしまった。	発生
55	南湖院	氷屋で働いていた。地震の時は配達中で南湖院の病室にいたが、病棟から這いずり出るのがやっとであった。	発生
56	西久保	同級生と魚取りに行こうとして北向地蔵のところまで行ったが道標(三寸角柱)につかまって、転がるのを防ぐのが精いっぱい。	発生
57	萩園	三島神社の西側の田圃でかいぼりをしていた。水が少なくなりフナが捕まりだした頃揺れだし、同時に水がいっぱいになった。その付近からは水が大量に吹き出し大人でも胸の辺りまで水に浸かりながら逃げた。	発生
58	萩園	萩園の三谷地区にあった池ではドーンと音がして横揺れが来て、池の水がちょうど地を揺すっているようだった。	発生
59	萩園	水が少なくなりフナがつかまり出した頃揺れはじめ、同時に水がいっぱいになり、付近からは水が大量に吹き出し、大人でも胸のあたりまで水に浸かりながら逃げた人もいる	発生
60	浜竹	水中で揺れに遭遇し、用水池の水が大きな波を立てて揺れ、池から出ようと大きな草につかまったが抜けてしまい、生きている気持ちがしなかった。	発生
61	菱沼	土煙が立った松林小学校へ駆けつけ山本教員を救助した。自宅は後ろに傾いただけで無事であった。その夕方、平塚の市場へ牛を牽いて出かけたはずの弟から、東海道を現在の茅ヶ崎郵便局のあたりにさしかかると急に牛が動かなくなり大揺れがはじまったので、結局平塚行きをあきらめて引き返した顛末を聞いた。	発生
62	平和町	学校から帰って友達と団十郎山(今の平和町一帯、九代目団十郎別荘あたりの松山)付近で遊んでいると、「ドカン」という音と同時に揺れはじめるや、直ぐに皆が倒れた。	発生
63	平和町	団十郎山で父親と燃し木(自家使用の燃料)採取中、大きい地鳴りから激しい上下動に遭い、父から「松の木にしがみつけ・・・」、といわれたが、横揺れが続くなか松の木と一緒に倒れた。	発生
64	室田	帰宅すると大山街道に面した自宅は無事で井戸も使えた。68年前、安政地震を江戸で体験した祖父から、竹藪へ逃げるよう聞かされていたので教えを守った。	発生
65	柳島	畑で父親とネギを植えていたが、中腰で作業していたため前にのめって立つこともできなかった。	発生
66	柳島	畑で種まきをしていた。揺れのあと畑が波をうちはじめ、男性は側にあった木や父親のバンドにつかまりながら道路に出たが、そのとたん、畑や道路から水が噴き出しみるみるうちに胸まで水につかってしまったが、流れてきた小さな舟に乗り、ようやく自宅に帰ることができた。	発生
67	矢畑	海の方からゴーッという地鳴りがしたあと、大きく横に揺れた。	発生
68	室田	菱沼・八王子神社近くの友人宅で地震に遭遇し、松林小学校校舎(明治40年竣工の木造平屋建1棟に、大正12年度増築工事で従来の校舎に鍵型に繋ぎ合わす作業中)が、もの凄い土煙をあげて倒壊するのが見た。慌てて駆けつけ、同じ室田の山本庸之教員が校舎の下敷きになり助けを求めているので、集まった人々と屋根瓦を剥いで助け出した。	発生 救援
69	浜竹	漁網干しに浜に向かう途中、林間学校辺りで地震に遭遇した。最初、激しく上下に揺れたため地面にたたきつけられ、続いて水平方向の揺れが続いた、小和田のおよそ300軒の家の内半分が全潰・半潰し、まともに建っている家はわずかで、トタン屋根の家は被害が少なく、地割れは幅1.8m、長さ6mほどのものが相当数生じたが、それより小さい地割れは無数で、中から濁水が吹き出ているところもあり、地割れの多くが東西方向に生じた。井戸の多くが潰れており、伍仁原踏切近くの方と浜竹の豆腐屋の方の井戸が健在で、皆が分けて貰った。	発生 地殻変動 くらし
70	南湖	立っていることができず、はいずることもできず、転がっていただけ。揺れは大きいのがいきなりきて、後は小さいのが続いた。津波が起きる時は、海水が平島まで引き、一気に砂山になっていた。現在の国道134号線まで海水が押し寄せきて、漁船はほとんど壊れて使い物にはならなかった。	発生 津波

	場所・地域	証言	証言要素
71	東海岸	東海岸では地震後松山が高さ1～2mにうねっていた。一時間後海岸へ行ったら潮が大潮の時以上に引いていた。現在の湘南道路は土手になっていてその北側に海水の水たまりが所々にあった。	発生 津波
72	柳島	地震で倒れなかった家は、柳島で3軒だったと言われる。当時160軒位は家があつてである。死亡した人の数は聞く人によって違う。しかし10人以上の人がなくなった模様である。9月1日で暑い頃だったのですぐ穴を掘って埋めた。元々が低い所だから、穴を掘っても水が湧いてくる。その水を汲みだしながら埋葬したという。 地震はちょうどお昼頃だったが、この辺の農家ではオヒルと呼ぶ昼食を早くとるのでその時間は仕事に出ている最中だった。だから、畑に居て地震にあったという人が多い。ある人は、家に子守りをしているおばあさんを残して来たので、すぐ村の方を見ると、家が次々に倒れていたという。それは壁土がばあーと舞い上がり、まるで火事の煙のようだったという。大根畑に居たが、所々からは水が噴き出し、地割れはするし、逃げる途中何度も穴に落ちたそうである。 井戸はほとんどが曲ったりくずれたりで使いものにならぬようになった。逆に、水が吹き出した井戸もあり、そんな井戸をみんなで使った。地震の後は壊れた家の材料を持ち寄って、バラックを作ってしばらく生活した。	発生 死傷者 地殻変動 くらし
73	下町屋	出かけるので、11時に昼ごはんを食べて、後片づけで洗っていたらグラグラときたんです。流しは外につけ流しだったのです。地所が波をうって揺れ、娘がトイレから駆け出してきた。『家へ入るな』と抱き寄せるのと2人して転んでしまったんです。主人は、昼を食べて昼寝してた。地震で外に飛び出したんです。池に囲いがあって、それを飛び越えて向こう側へ行っちゃったんです。舅は、床の間に寄りかかって新聞を読みました。上のものが落ちてきたけれど、何もできず座ってました。切れた新聞を握って、眼鏡が半分飛んじやったんですけど、みんな無事だった。子どもが納戸にいたんです。足下に屋根瓦が落ちてきて。とめてなかったんですね。それで後で建て直すときは、屋根をトタンにしたんです。町屋の村ではそうでもなかった。それほど潰れずにすんだんです。屋根が草葺きで軽かったんですね。一軒潰れました。屋根が落ちて。全部潰れた家は少なかった。	発生 被害
74	西久保	あの震災の時はとてもひどかった。この辺の家はほとんど潰れちゃったね。震災の前の年の大正11年に、めずらしく伊豆山の方からこっちにへ雷が降ってきてね。10月のいく日だったか、まだ、稲を刈りきらないうちで、夕方伊豆山の方に雲が出て変な陽気だなといっていたら7時ころに雷がゴロゴロ鳴りだし、戸を閉めたらパタパタぶつかるですよ。「何だべ」ってね。戸を開けてみたら3センチ位もある雷で次の日の朝まだそこいらにありましたよ。雷みちににあたった田んぼでも畑でも、全部だめになっちゃったけど、雷みちからそれたところは何でもなかった。怖いもんですよ。 そして次の年の9月1日、地震だった。昼の支度をしんに、かまどに火をつけていたらドーンときた。急いで火をもみ消して家の中にいた小さい子供の所へ行こうとしたけど、土間からなかなか上れない。一歩でると倒れ、一歩出ると倒れしてやっとの思いで子供をかかえて外へ出た。母屋はきれいに潰れちゃった。蔵は前の年草ぶきだったのを、草ぶきは屋根をやりかえるのに人出がいるし、高くつくのでトタンにしておいたので潰れなかった。草ぶきだったら重いから潰れたでしょうよ。それでも柱は折れ壁のくずれすごかったですよ。母屋は潰れたけど、湯殿は母屋から離れていてトタンだったので大丈夫だった。3、4畳の畳が敷いてあったのでそこに寝ました。倒れた母屋を仕事師に起こしてもらって、5、6年入っていて、それから今の家を建てたですよ。瓦屋根は地震の時、落ちてあぶないってそれからトタン屋根にする家が多かった。	発生 被害
75	小和田	大雨で午前中が休漁で、昼寝の最中にいきなり揺れ出し、母屋の後ろが持ち上がり前のめりに倒れ、足首に傷を負い危うく戸外に逃れた。物置・納屋も倒れるなか家族は揃って無事で、持船が気になり浜に行く途中、白十字会林間学校、現在の平和学園の西側あたりで大きな地割れに遭遇した。赤茶色の泥水が噴き出し道路が川ようになった。	発生 地殻変動

場所・地域		証言	証言要素
76	柳島	大正12年9月1日、私は妹と二人部屋の中で向い合って縫い物をしていた。その当時の娘達は学校を卒業すると、家事を手伝い乍ら農閑期に裁縫を習いに行き、嫁入り前には見習い奉公に出された。私も18才の正月東京の山の手のお屋敷へ行き、足掛け4年働き、嫁入りが決って21才の8月20日に帰宅した。9月12日が嫁入りというのでその支度に余念がなかった。その頃のおひる御飯は10時頃なので、家族8人まだ家の中にいた。12時頃西北の方向、丁度お宮の方からゴオーンとうなるとも、大風ともつかぬ異様な響きと共に、巨大なハンマーでガーンとなぐる様な音がして、高い所の壁が一度にふるい落ちた。なんだろうと畳へ手をついて立とうと思ったらグリーンと家がもち上る様にしてぐさっとくずれた。其の時、奥と座敷の境の大きな長押(なげし)が私の頭上から落ちて顔と頭に大怪我をした。体は座ったまま背中の上にずっしりと材木がのっけていて身動き出来ず、手の上にダクダクと生ぬるい物が落ちている。ほかの人はと思うと違う方向から母と祖父の声が聞こえる。「とっちゃんどこにいるんだよう」と母の声、父親の声はしない。おじいさんの声もしなくなった。私は傷がしびれて余り痛くないが、むかむかと気持ちが悪い。「ああ村中みんなこんなに違いない。こうして私は今に死んでゆくのかしら」私は真剣に考えた。子供の頃何処かの地震で「家の下敷きになった人を出そうと思ってのこざりて引いたら、髪の毛と肉がのこざりの刃についてきたんだとよ」と母が悲しい顔で話したのを思い出し、私もここでどの位生きているんだろう。死ぬのなら早く死にたいと考えていた。 其の内どの位だったのか、屋根の上で人声がして穴を開けているらしい気配がする。やがて穴があき私の髪の毛が見えたらしい。こんな所に鳥がいると私の髪の毛をつかんだ。「痛い」といったので皆びっくりした。そしてようようやっと抜け出す程の穴にして、もみ出すように身をよじり乍らやっと出た。忠次と米やの祥太郎さんが両方から腕をささえて屋根の上から引っぱりだされた。やがて祖父も母も妹も次々に出してもらった。祖父は足をはさまれて出すのに困難たらしいし、妹はおでこに茶のみ茶碗大のコブが出来ていたが、そんなものは誰もおかまいなし、私はのうてんをはずれて後から前へかけてがばっと皮がむけ骨が出ていたらしい。それに左の目とこめかみ辺りをひどく打たれて顔は三角にふくれあがり、流れる血は煤でどす黒く汚れ、髪はちらし髪、白い浴衣は血で染り、此の世の人とは思えない姿だったらしい。これを見ていた6、7人の子供が異口同音に「ワー」とあばれて地団駄ふんで泣き出した。その内菊次郎おじさんが何処からか看護婦さんを連れてこられ、応急の手当てをしてもらい、「一時も早く病院を見つければ手当てしなさい」と帰られた。余震が激しく、其の夜は外へ蚊帳をつつて前の家の人とザコ寝をした。 時々私の名前を呼んだり、息をうかがったりしていたらしい。 明日になって何処の医者も怪我をしたり、つぶれたりをやっているところがないが、寒川の皆川病院だけがやっているというので、私は戸板に乗せられ、親類の人と父親と10人位でかわるがわるかつがれて行った。倒れた家で道がさえぎられたり、倒れた大木をのり越したり、田圃道は地割れが何処迄も続き大変だったらしい。夕方ようやく病院にたどり着き、すぐ台の上で治療を受けた。包帯を取って皮をまくると、もう白く色が変わっていて中に泥や、煤がいっぱいくっついていてるので、ブラシで洗濯する様に洗って消毒するのでみていられなかったらしい。其の上麻酔もしないので肩から足の先迄大勢の人がすき間なく押さえ付け、熱苦しいのと痛いので、もがくと余計力を入れる。父親はとっても見ていられず遠くの方へ行っていたと後で聞き、本当に嬉しく有難かった。お蔭で医者が驚くほど良くなり半月余りで退院し、第六天神社へ軍医が来て治療をしてくれると言うので、其処へ少し通って治りました。 退院後前のおばさんが「私はお化けなんて見た事ないけれど、お化けとはあんなすごいおっかないものじゃないでしょうか」と言われた。 私はお蔭様で治ってこうして生きていられるけれど、村でも幾人かの方が亡くなられ、本当にお気の毒でした。 震災後は村の土地も隆起し、大水の被害も少くなり、海水もこなくなり、きれいな黄金色に稲が稔る様になりました。さんざん苦労した農家も追々楽になり、思い出の田圃も住宅になってしまい、村は昔の面影は全くなく見違える様になってしまいましたねえ。本当に感無量です。	発生 救援 死傷者
77	東海岸	お昼で魚屋さんが来てたの。魚藤が。そしたら、お祖母さんと大阪の話をしていたら、グラグラときたから魚屋さん驚いて外出て松の木にしがみついた。それから玄関に斎藤さんがいて、玄関からパッと外出たの。誰も何ともない。そのかわり、幸田のおじいさんがベシヤンと潰されて動きとれない。それで『大変だ』っていうんで、みんなで屋根持ち上げて出したの。這いだしたの。土かぶって。出たら動けなくなっちゃって。机に頭入れてて助かった。それで戸板にのせて、津波が来るといけないと運んだんです。私はヒョロツとした松につかまったら、その松が抜けてひっくり返っちゃったの。ガラス戸なんか壊れないで、横倒しに倒れた。鉄砲道が割れて水が噴きだして。方々から無茶苦茶になってね。潰れて亡くなった方もありますもんね。火事がなかったですからね。あの向こうの魚藤の通りなんか、両側が全部潰れてね。真ん中歩くところが少し歩ける位でしたね。知っている方が貸別荘でしたから、叔父のお友達に世話してあげて、安田さんて方ね。トタン屋根のような家は潰れない。そこに10何人で泊まったわね。みんなその辺の潰れたような人たちが。食べるものはありましたね。焼けてないから。それで、どこからか玄米仕入れてきてお米ついた覚えがある。それから汽車が通るようになってから東京へ帰ったの。東京は潰れていない。ここよりひどくなかった。この辺はすごかった。砂だからでしょうね。それで、この前の家が、台所と2階のない部分だけが残ったんですよ。風呂場とそこでちょっと泊まれるようにしたわね。	発生 被害 死傷者 くらし

	場所・地域	証言	証言要素
78	萩園	畑に行こうと道を歩いていると、突然道路に突き飛ばされたように叩きつけられた。立ち上がろうとするとまた転ばされ、やがて道端の用水堀に転がりこんでしまった。気がつくと家のことが心配になり、転びころび家にたどりつくと、母屋も納屋もペシャンコに潰れ、小さな木小屋だけがよろけたように立っていた。家族はと見ると姿が見えない。隣の家で、潰されていると大騒ぎをしている。丁度昼休みであったので女房は3才の娘をつれてお茶飲みについて潰されたようだ。 隣りの家を見ると、屋根棟が大きく口を開け軒先は地についている。その家の主人は、座敷の火鉢の前で煙草を吸っていたが、屋根棟が大きく口を開けたので奇跡的に安全であった。上がり框に腰掛けていた女房は、とっさに子供を抱いて外に飛び出そうとしたが間に合わず、落ちてきた屋根の底の下に押し潰されていて、近隣が集まり大騒ぎのところだった。 草葺き屋根であるので救出はなかなか手間取ったが、幸いに家の桁と屋根の間に三角形の空間があったので、親子抱き合っとうずくまっていた助かった。これまた奇跡であった。 多くの家が倒れたので、泥壁の埃が立ち込めて村中が薄暗くなるほどであった。また畑に行こうとした人もあったが、畑といわず道路といわず至る所の地面が大きく裂けて、そこから地下水が天にも届く勢いで噴き上げている。平塚の海軍火薬工場で爆弾の破裂するような音が激しく鳴り、この世は一体どうなるかと生きた心地はしなかった。	発生 被害 地殻変動 くらし
79	赤羽根	赤羽根の山に落ち葉を取りに行っていて地震に遭った。地面や周囲の木が波のように揺れているなか、放り出されそうになりながら木にしがみつki助かったが、帰ってみると自宅は潰れていた。自分の家が潰されたのはショックだった。これからどうするのかと思うと心配だった。	発生 被害
80	香川	香川駅踏切に近い母親の実家で大地震に遭遇し、「ドン」という太鼓のような音がして積んであった薪の山が崩れたので、地震と思いすぐに竹藪に駆け込んだが、竹藪の中の墓石など倒れていたのに気づかず、自宅に戻り母屋とか井戸などさしたる被害がなかったので安堵した。	発生 被害
81	赤羽根	四方を見渡すと大山街道の向こう側、高田の熊野神社と本在寺の間の家と甘沼の家、近隣でも聞こえた両家の屋根瓦が凄まじい土煙とともにずり落ちるのが見えた。幸いにも自宅は傾いたのみで済んだ。下赤では多くが傾いた家ばかりで、死者も出ず井戸も一部で濁ったり水量が減った例もあったが、多くが支障なく使えた。	被害
82	赤羽根	揺れで母屋が前のめりになり、軒が下がったものの家族は無事で、後日とび職20人程を集め家を起こした。この男性の家は、赤羽根山と大山街道との間の低地にあり、近所の民家5軒と倉庫2ヶ所が全潰し、倒れた家は前のめりが多かった。	被害
83	香川	酒屋である熊沢家の酒蔵が壊滅し、清酒「曙光」が流出し、田畑にしみ込みました。これが肥料の役割を果たし、数年間作物の生育が通常の2倍になった。	被害
84	香川	街道の向こうの西久保の家々があらかた倒れているのに、新築2、3年目とはいえ我が家は、幸運にも、板の間が上下しながら柱がずれた程度の被害で済んだ。街道に面した並びの6軒中、隣家と我が家が全潰を免れ傾いたのみで、井戸も支障なく使えた。	被害

	場所・地域	証言	証言要素
85	南湖	大正12年9月1日、大地震が相模湾北部を震源地として発生し、茅ヶ崎も被害は大きかった。その日は二百十日前日のせい、夜半から風雨が激しかった。 午前10時頃ようやく収まったと思うと急に強い陽射しになったり、落ち着かない天気だったが、午前11時58分、突如大地が大きく揺れ出し、立っていられない状態となり、物は倒れ、棚の物はバタバタと落ち、遊びに来ていた友達は自分の家へ向って皆よろよろと転んでは立ちながら、散り散りにいなくなってしまう。一瞬のことである。気が付いてみれば近所の家々がぺちゃんこに潰れてしまって土埃があがっている。畑のあちこちから濁った水が直径50センチ高さ1メートル位に噴き出し(地盤の液状化)、道路には亀裂ができ、何が何だか恐ろしさで訳がわからない。そのうち大人が「こりゃあ地震だ」と言う声。大きな揺れは収まったが余震は絶え間なく起こり、子供たちはその度に悲鳴をあげていた。余震は暫らく続いた。 追い打ちをかけるように「津波が来るぞー。早く逃げろ」と叫び声があちこちからあがり、どの家も産土山(下町の住吉神社)や天王山(中町の八雲神社)などの高台に避難した。 幸い大きな津波ではなかったので翌日は我が家へ帰った。といっても家は潰れてしまっているのて庭や竹藪に筵(むしろ)を敷き、夜は蚊帳(かや)を吊って幾日かを過ごした。 夜、高台から見た赤く染まった空は東京、横浜方面の火災だったことが後で分かった。「朝鮮人が暴動を起こして襲来してくるから用心しろ」と人々が口々に騒ぎ、更に恐怖心がつのった。競って竹槍を作り、警戒に神経を集中する不気味な幾夜を過ごした。 一週間後に甲府の歩兵第49連隊第7中隊が茅ヶ崎町の警備にあたってくれ、ようやく町民は平常心に戻ることができた。 後日、朝鮮人の暴動は全くのデマであったことが判明したが、デマの犠牲になった人は気の毒だと思った。流言蜚語の恐ろしさを感じた。	発生 被害 地殻変動 津波 デマ
86	小出	尋常高等小学校や腰掛神社等が倒壊し、震災と翌年1月の余震と思われる地震の被害で、修繕が不可能となった村役場が移転せざるを得なくなりました。	被害
87	小出	倒壊した家はほとんど玄関側に倒れ、2階建ては1階が潰れて2階が助かった。	被害
88	小和田	井戸枠が壊れた。	被害
89	小和田	井戸水の濁りが甚だしく飲めなかった。	被害
90	小和田	水と砂が同時に吹き出し、井戸が埋まったので、掘り起した。	被害
91	小和田	井戸に地震の影響はなかった。	被害
92	小和田	井戸水は少し濁ったが濾して飲んだ。	被害
93	下寺尾	自分の隣組10戸のうち9戸は傾いて、1戸が全倒壊した。傾いた家のうち、庭の周囲のもちの木に寄りかかって倒壊しなかった家は何戸かあった。	被害
94	新栄町	新町はほとんど倒れた。銀座通りの釜成屋本店とその反対側の指旗の2階建てが道路側へ倒れた。横浜銀行が隣りの家にのしかかるように倒れ、昼寝していた人が亡くなった。瓦屋根の家が多く倒れた	被害
95	芹沢	当時芹沢の全戸数は140戸位で、居住地中谷戸は24戸でそのうち7戸が完全に倒壊、15戸が損壊した。家屋のほとんどは草葺き平屋建てで、天井に板などを張り、中2階として養蚕などに利用していた。また民家以外では、善谷寺の本堂や小出村尋常高等小学校の8教室あった新校舎が倒壊した。	被害
96	芹沢	善谷寺の本堂は翌年1月15日の余震で倒壊した。	被害
97	芹沢	善谷寺の本堂は9月4日の余震で倒壊した。	被害
98	芹沢	小出村全体で115戸がつぶれ、大谷では26戸のうち地盤のやわらかい場所に建っていた9戸が残り、17戸は全壊した。	被害
99	茅ヶ崎	土蔵はみんなやられた。	被害
100	茅ヶ崎	草ぶき屋根の家で倒れず。	被害
101	茅ヶ崎	ふだん倒れそうな家は倒れなかった	被害
102	茅ヶ崎	寮に住んでいたが、地震の時は仕事で、急にバンという感じで縦揺れで立っていられず倒れてしまい、機械につかまっていた。工場も寮も倒れてしまった。(純水館)	被害
103	茅ヶ崎	十間坂の国道沿いはほとんど倒れた。	被害
104	茅ヶ崎	地震後の変動により、十間坂から本村のあたりが一望できるようになった。	被害

	場所・地域	証言	証言要素
105	茅ヶ崎	台所でその子どもといたところで地震にあった。上から物が落ちてきて埋まってしまった。なかなか出られなかったが、出るまでに余震がたくさんあった。いっしょにいた子が柱の下敷きになって死んだ。あちこちでお葬式があった。	被害
106	茅ヶ崎駅	茅ヶ崎駅で死んだ人はいない。跨線橋も異常なかった。	被害
107	茅ヶ崎駅	現在のホームの西側に1棟駅舎があり北側に1棟約40坪の駅舎と待合室があり待合室も1等2等3等の室があった。建物は木造で屋根はかわら葺、駅員は全員で12人、ホームは本線の1本と相模線のホームの1本と全部で2本あった。駅舎が倒壊した時には、すごいほこりが立ちこめ、見とおしも非常に悪かった。渡線橋も、地震の時は異常が無かった。	被害
108	茅ヶ崎駅	茅ヶ崎駅北口付近の家屋はほとんど倒れた。	被害
109	茅ヶ崎駅	銀座通りの釜成屋本店とその反対側の指旗の2階建てがそれぞれ前(道路上)へ倒れた。道路は3間ぐらいだったのでいまなら車は通れない。	被害
110	茅ヶ崎駅	伊藤醤油店(カギサン)本宅と倉が全壊した。	被害
111	茅ヶ崎駅	茅ヶ崎駅下り線には地震発生の30分前に貨物列車が入っていた。蒸気機関車とともに山側に脱線転覆した。その時蒸気機関車から出る熱湯で人間がそばに寄れなかった。一方上り線路には急行列車の待ち合わせのため貨物列車が待機中であったが、貨物約2両が脱線し転覆した。	被害
112	茅ヶ崎駅	畑から家へ帰る途中、駅南口に辿り着いた時、下り貨物列車が脱線転覆して蒸気機関車は南に倒れたまま煙突から煙をもうもうと吐いていた。	被害
113	茅ヶ崎駅	脱線転覆した機関車や貨物列車の撤去回収作業は直ちにおこなうことはできず、駅構内には機関車が横倒しのまま何日も放置されていた。	被害
114	茅ヶ崎駅 東海岸	市内の様子を紹介すると、たとえば、茅ヶ崎駅では、駅舎が倒壊し、わずか2ヶ月前に開設したばかりの南口駅舎も傾いてしまいました。当時の別荘被害は全潰21戸、半潰3戸でした。しかし震災のため当時を引き揚げた人はそれほど多くないようで、むしろ南湖では震災後に別荘用に土地を売る人が増えたといわれています。	被害
115	堤	田んぼに近い低地の家はほとんど倒れた。斜面に近い高い所は倒れなかった。倒れなかった家も修理してやっと住めるものが多く、当時の税務署への申告はほとんどが全半壊であった。	被害
116	東海道線	鉄道の線路は飴の如く曲がり電柱はあちらこちらへと架線はめちゃめちゃであった。	被害
117	行谷	行谷では戸数25戸のうち、全壊は1戸、残りは半壊でほとんどの家が傾いた。自分の家は傾いてしまったので、裏の竹藪の中に蚊帳を張り1週間位そこですごした。	被害
118	南湖	南湖下町は全戸数が250戸くらいで、2、3軒を残して全部が倒れた。	被害
119	南湖院	南湖院が燃えた。場所は正門の左だった。	被害
120	馬入川鉄橋	大工さんやとび職を頼むにしても地元の人はあの騒ぎで来られず、他県の職人を頼んだが、それも鉄道が寸断されていたなかなか来られず一週間以上はかかった。	被害
121	馬入川鉄橋	国鉄馬入橋の橋脚は途中より折れたり、根底より覆えたりし、ただ1本しか満足なものはなかった。橋脚は川の中に墜落して埋没しており復旧には何年もかかるといった。	被害
122	円蔵	ほとんどの家が全壊または半壊した。	被害
123	円蔵	家の倒れたのはわずか。	被害
124	円蔵	全壊した家はほとんどなく半壊した家屋が多い。	被害
125	円蔵	円蔵地区はつぶれなかった。	被害
126	西久保	家屋の倒壊は半分以上。	被害
127	西久保	全壊建物は30戸、半壊20戸、異状のない建物は10戸程度。	被害
128	萩園	ほとんどの家が倒壊し13～14戸ぐらいしか残らなかった。	被害
129	萩園	100軒の内、7割5分が全壊。	被害
130	萩園	地区全体の約半数70戸位潰れ残った家も人が住める状況ではない。	被害
131	萩園	130戸の家屋のうち約90名(117戸)が倒壊。	被害

	場所・地域	証言	証言要素
132	萩園	土蔵がある家では全部倒れていた。	被害
133	松尾	22軒の内20軒は潰れました。	被害
134	柳島	残っていたのはタン屋根の家。	被害
135	柳島海岸	ほとんどの家屋が倒壊した。	被害
136	矢畑	ほとんど倒壊した。	被害
137	矢畑	半数が全壊した。	被害
138	矢畑	当時は鴨居に平物を使った家が多かったが、立ち柱のくいこみのところが弱く、そこから柱が折れたり平物がはずれ落ちたりして、その下敷きで死傷した人が多かった。	被害
139	矢畑	イヌ井(熊澤醸造)の作業所がばたばた倒れていった。	被害
140	南湖 南湖院	火災は南湖院の愛光室(一部が薬室になっていた)から出火し、愛光室は全焼した。藁屋根、瓦屋根の家が倒壊し、タン屋根の家は無事だったので、その後タン屋根が急速に増えた。食料はこの土地が半農半漁だったし、救援物資が配給されたのでさほど不自由はなかった。負傷者や伝染病に対しては、十間坂の第六天神社境内武徳殿に熊本の第6師団救護班によって診療所が設置された。不通になっていた東海道線は赤羽根工兵隊が早々と修理してくれた。無惨に壊れた馬入川鉄橋は難工事だったので、上町の松葉屋踏切のそばへ停車場が仮設され、汽車は折り返し運転となり、茶屋町は西へ向う沢山の罹災者で昼夜の別なく雑踏になっていた。この罹災者相手に、ふかし芋やおにぎりなどを売って繁盛した人もあった。	被害 くらし 救援
141	南湖	自宅周辺はほとんど倒壊したが、自宅は、屋根瓦が全て落下したものの建物は傾斜程度で倒壊しなかった。西運寺は倒壊していた。地割れは無かった。現在の宮田工業の前にある鉄橋(下は河川)が落下し、線路は上下二本とも飴のように曲がり、自宅の前に汽車が止まっていた。その後仮設駅ができ、平塚までは歩いた。汽車を降りた客にむすび、すし、さつま芋をふかして売り出した。氷水、サイダー、ライスカレー屋などが出店して非常に賑わった。	被害 くらし
142	馬入橋 (中島)	橋はもう残骸だけでしたね。市内の方は、道路が裂けたようなところがありましたね。橋に取りかかる前に、そういう道路を修理したんです。亀裂はひどいところで一尺くらいでした。われわれがお世話になったところはあまり被害を受けていなかったのか、落ち着いておられた様子でした。電気はついていましたし、井戸水も飲めました。昼食は、飯盒(はんごう)にね。兵隊はみな飯盒を持っていましたから。炊いたのを入れて持っていきました。(食糧は)現地で調達したのではないかと思います。(橋の)資材は現地ですね。橋はこちら側(茅ヶ崎側)からです。平塚側からは豊橋の部隊がかけました。最初の橋杭を打つときは櫓を組んでね、杭を打っていったんです。機械は何もなかったですね。私の所属していた第一中隊は、水の流れが一番急なところを受け持ったので、ちょっと物を落したりするとどこへ行ったかわからない。どろどろの水でしたが、川の流れの速いのが大変でした。それと夕立ですかね、2回ほど急にものすごく雨が降って、せっかく打った橋の杭が流されてきた物に当たってゆがんでしまっってやり直しということがありました。とにかく(平塚側から担当の豊橋の)15大隊の方は水がないので早くできましたが、こっちは舟に乗りながらですから大変でした。	被害 復興
143	萩園	関東大震災のときには困りました。家は潰れなかったけれど、庭が割れて水が吹きました。竹藪の中に3軒で入ってみんなして寝ました。話よりひどかった。あのときはデマがとぶでしょ。騒ぎでした。息子は兵隊に行っていて居なかったし、村の出入口に見張りをしていました。	被害・くらし・ デマ
144	南湖院	中海岸4-5-48付近にあった松風亭にいた。建物が上下に揺れ屋根の瓦がぜんぶ落ち外へ出られない状態であったが建物は倒れなかった。松風亭というのは療養所であり、当時南湖院の病院の療養所であった。私は今の言葉でいえば家政婦である。患者の数は30人ぐらいだと思いました。	被害・死傷者
145	茅ヶ崎	翌日早速おにぎり、缶詰、衣類の配給、1週間程でアメリカや役場、赤十字から毛布や医療品、缶詰等が、町からキャラメル菓子等、魚の缶詰、ローソクが届いた。食糧、衣類等区長さん宅に伍長さん(現在の組長)がもらいに行き、わけてもらった。区長さんの家に皆が集まって、救援物資の袋(食糧、衣類)をもらった。南京米、毛布、衣類の配給、アメリカからパン、衣類も届いた。	救援
146	茅ヶ崎	町からマッチ等が届き、他県からも救援物資の衣料や食糧が来たり。	救援
147	茅ヶ崎	農家のものは食糧を出し合って被害者に配った。	救援
148	茅ヶ崎	小学生は学校でハム、ミルク、缶詰等。	救援
149	南湖	人々の救出には、パール、のこぎり、丸太が役立った。	救援

	場所・地域	証言	証言要素
150	南湖院	旧南湖院で人が梁に挟まれ長後屋商店(三橋)の主人がのこぎりで梁を切り助けた。	救援
151	萩園	農家は、梅干やたくわんで食事し水は近所でもらってきた。	救援
152	萩園	米・みそ等潰れた家の中から出して食事をした。	救援
153	萩園	畑には作物、物置には米があり、家の廻りに芋などがあつたため焼いて食べた。	救援
154	柳島	米店から南京米を買って食べている家もあった。	救援
155	柳島	他地域に(食糧を)買いに行ったけど断られた。	救援
156	柳島	水にブカブカ浮いていたスイカを取って4～5日間食糧としていた。	救援
157	柳島	南京米の配給があつたが主食は不自由していた。	救援
158	柳島	お店をやっていたため不自由はしなかった。また、近所の人がもらいに來たためわけてあげた。	救援
159	柳島	隣り近所で食糧を持ちあつた。	救援
160	柳島	食糧は多少有り、無くなると農家からもらっていた。	救援
161	矢畑	米はあつても、精米所が潰れてしまったので、自分たちで手つきをして食べた。	救援
162	柳島	井戸が使えず小川の水がきれいだったので米をといだり、家の前が田圃だったのでその水を布でこして米を炊いた。又沸かして飲んだ。	救援 地殻変動
163	下町屋	鳥井戸のカド屋へ買い物に行った人が店からあわてて外に出ようとして倒れてきた棚に頭をうって大怪我。	死傷者
164	芹沢	旧小出川では、死者4名、負傷者はどのくらいかわからない。	死傷者
165	茅ヶ崎	負傷者は60～70人位だが、「家で手当てしたものもいる」ので詳細は不明としている。	死傷者
166	茅ヶ崎	13歳の妹が見えないので物置から金梯子を持ち倒壊した家の中を調べたところ、妹の頭の髪の毛が梁の下敷きになっていて、すぐ助け出した。負傷は顔面挫傷程度。	死傷者
167	茅ヶ崎	父が鳶職だったので、大揺れがおさまると得意回りをして、南湖のおばあさんが落ちた鴨居(平物)と床に腕をはさまれているのを、バールで鴨居を持ち上げようとしたところ、床が割れ隙間ができて救出した。	死傷者
168	茅ヶ崎	近所で3歳の女の子が梁の下敷きになって死んだ。	死傷者
169	茅ヶ崎	子ども7歳がタンスの下敷きになって死亡。	死傷者
170	茅ヶ崎	子どもが寝ていて敷居と梁の間に頭をはさまれて死んだ。奥さんは外にいたが、子どもを助けようとして1.5mまで近寄ったところで壁を背負って動けなくなった。	死傷者
171	茅ヶ崎	おばあさんが子どもを助けようと建物内に入ったところ倒壊し死亡した。なお、子どもは死亡したおばあさんが抱きかかえていたため助かった。	死傷者
172	茅ヶ崎	妹が行き先を告げずに遊びに行ったため探し出すのに苦労した。	死傷者
173	茅ヶ崎駅	現在の日通茅ヶ崎営業所のところに吾妻屋という料理屋があり、南湖の娘さんが一人門の下敷きになり死んだ。現在の電話局の南側の別荘でおいじさんがはりの下敷きで一人死んだ。前の田の伊藤清左衛門さんの奥さんがはりの下敷きで死んだ。純水館で主人の奥さんが家の下敷きで死んだ。	死傷者
174	南湖院	南湖院が火災で3名が死んだ。	死傷者
175	南湖院	自宅で養鶏場をやっており南湖院へタマゴを配達中、同敷地内路上で(地震に)あつた。南湖院の中にあつた精米所が倒壊し13歳の男の使用人と職員寮の家族が一人死亡している。	死傷者
176	萩園	2～3人の人が潰れた家の下になって死亡し10余名の人が怪我した。	死傷者
177	本村	本村では死者は22名。	死傷者
178	柳島	柳島では死者は40人位。	死傷者

	場所・地域	証言	証言要素
179	小和田	地震のときは、この部落だけで8人くらい死にました。家が潰れてね。田舎だから火災にならなかったから良かったけれど、私らの家もそっくり潰れてしまった。この辺は山はないし、木がないので赤羽根の地主から譲ってもらって、山で木を倒して荷車で引っ張って来て、それから木挽(こびき)にかけて柱をこさえた。職人も足りなくて岐阜や名古屋から出稼ぎが来た。私んとも岐阜の職人が2、3人来ていた。地震のときはちょうどお昼のときで、朝のうち雨が降っていてそのときはもう雨は上っていた。平和学園のこの道路がわれて川みたいになっちゃった。下から水がふき出して来てね。土地が隆起して来たんで海が浅くなっちゃった。チサンセンターの前の方は、海に入ると首が出ないくらい深かったけど今は遠浅でしょう。田んぼも畑になっちゃった。津波は大分来たけれどたいしたことはなかったんです。	死傷者 被害 地殻変動 津波
180	東海岸	奉公先の家の台所にそこの子どもといた。いっしょにいた子どもが柱の下敷きになって死んだ。別荘地だったので皆食糧の保存などしていなかったので困った。ヤミで米を買った。	死傷者・くらし
181	円蔵	地割れ陥没は多く、道は水があふれていた。	地殻変動
182	円蔵	田圃などが地割れした。	地殻変動
183	小出	地割れから水が噴き上がる光景を見た。	地殻変動
184	小出	井戸の水位が上がり、水が多量に出たので、畑に溝を掘って川の方に流した。	地殻変動
185	国道1号	国道一号線は50cm位の地割れがいたところで見られ泥水を吹き出していた。	地殻変動
186	国道1号	国道一号線あたりはあちこち松が倒れ、地が割れ、亀の甲羅のようであった。	地殻変動
187	国道1号	小出川の下町屋橋の国道一号線の道路の地割れは甚だしく、東西に何十mというのが何本かでき深さは目に見えぬ程で割れ目は橋をかけねば渡れぬようであった。	地殻変動
188	国道1号	国道は今より幅がなく両側の家が倒れたので、今なら車が通れない。	地殻変動
189	国道1号	当時の国道は狭く家屋が倒壊して通行不能となってしまった。	地殻変動
190	小和田	林間学校の南側の宮手松という一本松が生えていた丘の周りの(砂丘間低地のわき水利用の田んぼか)が盛り上がって畑となった。それで丘じゃなくなった。	地殻変動
191	下寺尾	3日間位地割れ状態であったが、後に自然に埋没して元の状態に戻った。	地殻変動
192	芹沢	地割れは、縁側から南にかけておこった。	地殻変動
193	芹沢	地割れは、東西方向におきた。	地殻変動
194	芹沢	南北に走る道路を横切る地割れが多く見られた。	地殻変動
195	芹沢	地割れの形態は網目状のものや直線状のもので、長さは数mから50～60m、幅は数cmから1m以上、深さは「それほどでもない」ものから「中をのぞいても真っ暗で気味悪かった」というものまで、かなりの幅が見られた。	地殻変動
196	芹沢	地面が根を張ったように細かく割れ、歩くのに苦労した。畑の芋の根が出るほど土が揺された。	地殻変動
197	茅ヶ崎	外でうつぶせになったが、両手や身体の下がむくむく地割れして、この中へ落ち込むのではないかと怖かった	地殻変動
198	茅ヶ崎	東洋陶器真南の線路が陥没した。あそこは盛土したところだった。	地殻変動
199	茅ヶ崎	駅周辺では地割れはなかったが、機関区の付近で地面から大きな岩の固まりのようなものが2個飛び出した。	地殻変動
200	茅ヶ崎駅	北口駅前には地割れはひどく歩ける状況ではなかった。	地殻変動
201	茅ヶ崎駅	茅ヶ崎駅北口一帯は国道一号線まで全部つぶされ、約3尺(90cm)ぐらい一面に地下水が出て泥水でひどかった。	地殻変動
202	堤	堤では、地割れは1回開くと元に戻らず、そのまま開き放しであった。	地殻変動
203	東海道線	東海道本線の土手が平らになり、線路は宙に浮いていた。	地殻変動
204	東海道線	線路は波をうって持ち上がってしまった。	地殻変動
205	行谷	行谷では、庭先や道路の地割れは、小さくなったり大きくなったり開閉していた。また60cm位の高さまで水を噴き上げていた。	地殻変動
206	南湖	きんちゃく網が、今のパシフィックホテル(現・東海岸南)くらいまで届いていたが、浅くなったので届かなくなった。	地殻変動

	場所・地域	証言	証言要素
207	南湖	地盤が4尺(約1. 2m)隆起したので(津波は)大したことはなかった。遊歩道路の近くまで来たことは舟の位置その他でわかった。地盤が4尺ぐらい隆起したのは、4尺位水面の下にあったものが水面の上に出るようになったのと巾着網が現在のパシフィックホテルまで届いたのが、地震の後届かなくなったのでわかった。	地殻変動
208	南湖	津波で自分の舟が壊され、数日たって仲間の舟で漁に出ていったが、地震の影響でまったく魚が獲れなかった。当時魚はイワシ、アジ、ソーダカツオが良く取れた。今の2倍くらい。	地殻変動
209	西久保	幅20cm長さ100mぐらいの地割れが北向き地藏から日吉神社の方向にできた。	地殻変動
210	西久保	道に地割れがありました。幅30cm程でお宮の方に割れ目があった。それに所々に盛り上がりがあった。	地殻変動
211	西久保	(井戸は)枯れることもなく飲めたね。当時60cmぐらい水面下にあった木の杵が今は30cmぐらい水面上にでているよ。	地殻変動
212	萩園	地割れは道路、田畑の至るところで起こっていた。	地殻変動
213	萩園	八百新の前は特にひどく長さ60cm～70cm深さ2m～3m位地割れし青い砂のような物が吹き出していた。	地殻変動
214	萩園	万福寺の前の畑と相模川は土手が崩れた所もあり、川の水が流出した。	地殻変動
215	萩園	長さ1m位、深さ2～3メートルで地割れの中は青い沼の様な物があり揺れていた。	地殻変動
216	萩園	地割れは相当大きく、自分は逃げる途中その中に落ちた。『落ちちゃった』と叫びながら夢中で跳びだした。割れ目が空いたまま揺れていたのよかった。後で見に行ったところ割れ目はふさがっており、最後まで割れ目に落ちていたら死んだと思う。	地殻変動
217	萩園	地震後井戸水がひしゃくで汲み取るほどに増水したが2～3日後に元の水位に戻った。	地殻変動
218	平太夫新田	細かく割れたり動いたりして手が入るくらいでした。揺れがおさまると地割れはなくなり元通りになった。	地殻変動
219	平太夫新田	井戸の水位が下がり苦労した。	地殻変動
220	本村	大震災前は年2～3回本村まで波が来た。ひどい時は床ぐらいまで。河岸は地盤が高いのでそれ程ではあるまい。あまり被害はなかったように思う。北風が吹いた後西風になると波があがった。震災後は地盤が隆起したので来なくなった。	地殻変動
221	本村 今宿	道路に亀裂が生じ、余震によってその様子が変わるので、人々は地震の恐ろしさを感じていました。	地殻変動
222	松尾	家の庭先に幅1. 5m位の地割れができ、道路も所々地割れがありました。	地殻変動
223	松尾	井戸は粉々に壊れて使うことが出来なかった。近所の井戸もかなり壊れたようでした。	地殻変動
224	柳島	震災前には低地であったので、大水の際の水害や、満潮時の海水の逆流で被害があったが、震災による土地の隆起と、河川の改修により、開墾可能な土地が増えるという現象がおきました。	地殻変動
225	柳島	いたるところの道や庭に地割れがあり、幅は1mくらい、深さは4mぐらい。	地殻変動
226	柳島	地割れはひどく畑の中など柔らかいところの大きいのは1m位のもあり、小さい地割れはいたるところにあった。	地殻変動
227	柳島	家の庭でも幅4m位の地割れが生じ、割れ目から砂と水が噴き上がった。	地殻変動
228	柳島	多くの地割れが出来、二間梯子が届かず相当長い梯子をかけ歩く橋にした場所もあった。	地殻変動
229	柳島	本村だけでも井戸は約170本は有ったが、被害の無かった井戸は2本位だった。その他の井戸は濁って泥水になってしまい、海に近い所の井戸は塩水になって使用できなかった	地殻変動
230	柳島	柳島は土地に高低の差があったが、震災で低い所が隆起し、高い所はあまり隆起しなかったので平らになった。	地殻変動
231	柳島	柳島は印旛沼のようだった。一年中鰻や鯉がいっぱいいて遊舟会をやっていたがその辺一帯が陸地になった。	地殻変動
232	柳島海岸	国道134号ぐらいのところに幅二間(約3. 6m)長さ30間ぐらいに地割れが出来、中には粘土みみたいな土が見えて水を噴き上げた跡が見られた。	地殻変動
233	柳島海岸	地割れしたところからも水が噴き上げていた。	地殻変動
234	柳島海岸	30cmから50cm程度の地割れが多数でき、道路が凸凹になった。	地殻変動
235	柳島海岸	各家庭の井戸から海水が噴き上げて飲料水として使用できなかった。真水が出ていた井戸は2軒だけであった。	地殻変動
236	矢畑	土間に幅約3cm位、長さ約2メートル位の地割れ。	地殻変動

	場所・地域	証言	証言要素
237	矢畑	庭が6cm位割れ、段差が出来た。	地殻変動
238	矢畑	井戸水は真っ黒になり、飲める状態ではなかった。泥の黒さではなく、煤のような黒さだった。	地殻変動
239	矢畑	わが家の井戸は揺れているときは噴出したが、その後出なくなった。この付近の井戸は半数は出なくなったが掃除をしたらまた出るようになった。	地殻変動
240	矢畑	(井戸の)水位は日頃より上にあった。	地殻変動
241	柳島	井戸が使えず小川の水がきれいだったので米をといだり、家の前が田圃だったのでその水を布でこして米を炊いた。又沸かして飲んだ。	地殻変動 くらし
242	小和田	小和田の浜は波打ち際から急に深くなっていたが、地震で隆起して遠浅になった。おかげで、かなりの規模の津波が来ても波打ち際までに勢いが弱って大きな被害にはならない。60年間海を見続けているが、津波は一度もない。	地殻変動 津波
243	国道1号	いまの支所(JA相模東部支所)より西側一帯の家々で全潰や傾いた家々が多く、道路に足が入るくらいの地割れが数多く出来た。	地殻変動 被害
244	赤羽根	夜遅くなくても大八車に提灯を点けて赤羽根山まで逃げてくる人々がいた。	津波
245	赤羽根	チサンセンターのところまで来た。	津波
246	赤羽根	来なかったようだが、大勢の小和田の人が津波が来るというので赤羽根山へ登っていったので部落の者もあわててほとんどの人が山に登った。	津波
247	円蔵	南湖に津波が来るというので鶴が台北側、遠いのは赤羽根山まで逃げた。	津波
248	円蔵	地震後しばらくたって、だれかが津波が来るといったので香川の高い所へ避難した。	津波
249	円蔵	地震後に津波があると言って、南湖の人が逃げてきたが、父が八幡様の鳥居とこの地盤が同じだから、鳥居のところが大丈夫なら、こっちも大丈夫だと言って家にいた。上の部落の人は甘沼の山へ逃げて行った人がいた。	津波
250	香川	来なかったが、来るというので七面山まで避難した。	津波
251	香川	南部の人が裏山へ逃げてきた。	津波
252	小和田	浜から箱根の山を見上げて8割ほどの高さの波が来た。	津波
253	小和田	津波が遊歩道路(現・国道134号)のあたりまで来た。	津波
254	堤	津波が来るという噂が流れ、家族で米を3升持って浄見寺まで避難した。隣のおじいさんが津波が来ると聞いたら、柱に下駄をゆわえていた。何故そういう行動をとったか聞いたところ、気が動転していて本人は何をしたかわからなかった。	津波
255	柳島	津波はなかった。田の水は増えたようだったが地から噴き上がった水だと思う。	津波
256	中島・柳島	中島や柳島の松に海草が付いていた。	津波
257	南湖	津波で自分の舟が壊され、数日たってから仲間の舟で漁に出たが、地震の影響で全く獲れなかった。	津波
258	南湖	津波が今の134号まで押し寄せ、漁船はほとんど壊れて使い物にならなかった。	津波
259	南湖	風はないのに波が高いので、砂浜に置いてある舟を今の国道くらいまで引き上げたあと、母の実家へ農業の手伝いに行った。後で聞くと、海の水が急に引き始め、平島まで歩いていける状態になり、しばらくしてから大きな波が来て、引き上げた舟や網を壊した。うちの舟も壊された。	津波
260	南湖	南湖の親戚に聞いた話だが、潮が平島まで引いてから国道134号まで戻ったそうだ。	津波
261	南湖	津波があり、せりあがった水が相模川に入り、その支流が千ノ川に入り、堤防を越えて民家(茶屋町、鳥井戸の民家)に入った。	津波
262	南湖	津波が来るといって多くの人が天王山に避難した。	津波
263	南湖	近くで一番高台の天王山(八雲神社)や伴田の山(魚市場南側)に津波を避けるために避難した。	津波
264	南湖	天王山へ避難し食糧は各自持ちより自炊していた。あと毛布等を持って来て天王山で眠っていた。	津波
265	南湖	津波が来ると困るので友田の坂(現在の魚市場南東の坂)へ逃げようと思っていた	津波
266	南湖	八雲神社に避難して3日間位はそこの松の木の下(山の中)で蚊帳をはり寝泊まりした。	津波
267	西久保	津波が来るというので小学生や子ども、年寄り香川の山へ逃げていった。	津波
268	萩園	津波が来ると聞き、大きな樺に縄梯子をかけ、津波が来たら、その樺に登ることを考えた人もいた。	津波

	場所・地域	証言	証言要素
269	菱沼	津波が来るというので荷車へ荷を積んだりして大西(上赤羽根)の山へ大勢避難した。円蔵方面の人が提灯をつけてくるのが見えた	津波
270	本宿町	沖の方が一段と高く波が黒くなりそのまま陸に押し寄せ、舟と網を押し上げたらしい。	津波
271	松尾	地面に多少水があったようですが、地下から噴出した水や前に降った雨のせいではないでしょうか。	津波
272	室田	来なかったが、噂がたったので赤羽根山の方へ逃げた人が大勢いた。中には車に荷を載せて牽いていた人もいた。	津波
273	柳島	地震と同時に須賀から柳島を見たところ、柳島の土手が波を打っているように見えた後、茶色の煙が上がって来た。馬入川の水が逆行して付近一帯は水浸しになり、舟を使って本村まで行った。ほとんどの家の井戸から海水が吹き上げており、地割れしたところからも水が吹き上げていた。	津波
274	柳島	10時頃まで雨が降り、11時頃晴れてきたので父親と畑に行きダイコンの種をまいていたところ、畑が上下に揺れ、すぐそのあと畑が波を打ち始め、そばにはえている柁(まさき)につかまり、父親のバンドにつまりながら道路に出たとたんに畑や道路から水が噴き出し、見る見るうちに胸まで水につかっていたところ小さな舟が流れてきたので、その舟に乗って自宅方向にむかう途中でスイカが水に浮いていたので舟に乗せ、ようやく自宅にたどり着いた。	津波
275	柳島	私の家の井戸水は津波で川の水が逆流し床上まで浸水したため泥水となって飲めなかった。地震発生前にもものすごいかん立があり、雨もかなり降った。津波で小出川が氾濫し、上流の家が流されて屋根で人が助けを求めているので舟を出して助けた。	津波
276	柳島	津波が来て現在の内藤工務店付近にドンドン橋があったが津波に壊された。私の家の伝馬舟も津波によって藪下温泉の庭に押し上げられた。	津波
277	矢畑	噂程度であった。もし来たら赤羽根方面へ逃げるんだという噂も流れた。	津波
278	茅ヶ崎	朝からすごい雨が降っていたが急に晴天になり、風はないのに海は波が高いので砂浜に置いてある舟を現在の国道ぐらいまで引き上げた後、母親の実家へ農業の手伝いに行った。海岸に残っていた人(今はだれが言ったか覚えていない)に後で話を聞いたのですが、海の水が急に引きはじめ、平島まで歩いていける状態になり、暫くしてから大きな波(これが津波と思う)が来て引き上げた舟や網を壊した。家の舟も壊された。地震後東海岸の畑の砂地が盛り上がり、そこから地下水が吹き出たところが多くあった。	津波 地殻変動
279	円蔵	地震がおさまって、しばらくしてだれかが津波が来るといった。稲が風で揺れた音が津波に聞こえ、家族全員で香川の高い所へ逃げた。その時、むしろや蚊帳を持って一晩泊まった。その後、家に戻り、朝鮮人が殺しに来るというので、竹槍を作って身構えていた。	津波 デマ
280	下町屋	津波がくるという騒ぎがあつて、よその家の竹藪に一晩泊まりました。朝鮮人が来るといわれました。それからしばらくすると、横浜の方から故郷のある人が東海道を通っていきました。それで家の畑でイモが獲れたので、イモを蒸かして外へ出してやったんです。みんな通る人が喜んで食べていった。お湯を沸かして、お湯や茶を台に出して接待したんです。お金のある人は10円くらい置いておく人もいました。でも、お金を頂くためにやっているのではないからと追いかけてお返ししました。	津波 デマ くらし
281	赤羽根	朝鮮人が日本人を殺しに来る、津波が来ると噂がおき、赤羽根山にバラックを建て1週間くらい住んでいた。近所の人たちもいた。	津波・デマ
282	萩園	津波と朝鮮人が来るというデマが飛び、竹やり等の武器を作り備えた。	津波・デマ
283	茅ヶ崎	片瀬海岸に海賊が上陸した。	デマ
284	南湖	コタカ自転車屋付近(十間坂)の松の太木に台湾人と朝鮮人の二人が縛られ、殴り殺されていた。	デマ
285	東海岸	2、3日後デマがとんで、朝鮮人が辻堂海岸に上陸したというので竹槍を持ったり、猟銃を撃って騒いでいる人がいた。	デマ
286	不明	朝鮮人が暴れているから警戒せよというふれがあった。	デマ
287	不明	相模線の砂利積み込み人夫の朝鮮人が殺しにくる。	デマ
288	不明	相模川砂利採集の朝鮮人約10人くらいが来る。	デマ
289	不明	朝鮮人が大和から300人くらい来る。	デマ
290	不明	夜には何が襲って来てもよいように寝ないで竹槍を持って子どもの枕元に立っていた。	デマ
291	不明	在郷軍人や青年が竹槍や刀をもって朝鮮人の来襲に備えていた。	デマ
292	不明	朝鮮人が暴動を起すということで、自分は当時消防団員だったので毎晩警備に出た。	デマ
293	不明	消防団の人が中心になり夜警をはじめた。	デマ
294	不明	朝鮮人の暴動が起こるかもしれないということで、自警団を町内で作り竹槍を持って警備した。	デマ

	場所・地域	証言	証言要素
295	不明	竹槍を作り、夜間は2名で警戒にあたった。	デマ
296	不明	毎日10人くらいで竹槍を持ち、監視していた。	デマ
297	不明	部落の青年団が竹槍を持って辻々に立っていた。	デマ
298	不明	男たちは竹槍を作り、部落会で警備した。	デマ
299	不明	自警団が出来て自分たちを守ろうと夜になると警戒していた。	デマ
300	不明	竹槍を作って皆で中谷戸や二本松、大庭の方へと班を作り、警備に出された。	デマ
301	不明	町内で警防団(消防団)を編成して、鐘を叩いて巡回して警戒した。	デマ
302	不明	部落長がラッパや鐘で合図をし、一家から一人集めて朝鮮人に備えさせた。	デマ
303	不明	15歳以上の男子5人から10人が一団となり、竹槍や鳶口を持ち半鐘を打つなどして、7日間くらい警備にあたった。	デマ
304	不明	朝鮮人が山に逃げたという話で、竹槍、刀で山狩りをした。	デマ
305	不明	朝鮮人が近所の家の天井に潜んでいるというので、竹槍を作り数人でその家を取り囲んだ。	デマ
306	不明	その言葉(合い言葉のこー引用者注)が応答できなかった場合には槍で刺してもいいくらいであった。	デマ
307	不明	変な格好で歩いていて、朝鮮人にまちがわれて殺されそうになった教師もいたらしい。	デマ
308	不明	誤解を避けるため、九州などの実家へ帰る日本人は、東海道を通るとき、背中に朝鮮人ではないというような布を貼ったりして通った。	デマ
309	不明	朝鮮人10人くらいが数珠繋ぎにしばられていた。朝鮮人がいたということで半鐘をついた。	デマ
310	不明	ほんとうに『デマ』のため死んだ人たちはかわいそうだった。	デマ
311	南湖	1週間くらいは、みんなぼやっとしていた。	くらし
312	赤羽根	缶詰などやアメリカ産の物資が配給された。	くらし
313	赤羽根	3日ほどで電灯が回復し、自宅の庭の電柱も周りの電柱も倒れていなかった。	くらし
314	赤羽根	電柱は悉く倒潰して1週間以上も点灯せず、ランプやろうそくで暮らした。	くらし
315	円蔵	濁りもせず、素堀の井戸も崩れず被害もなかった。	くらし
316	円蔵	井戸は、ヘドロが噴き上げて水深は40～50cm。	くらし
317	香川	消防組の一員として連日連夜警備についた。	くらし
318	小出	1軒で複数の井戸を所有する家では、川沿い(沢沿い)の井戸は濁ったが、裏山に近い井戸は濁らなかった。	くらし
319	小出	ほとんどの家が農家で、食糧を備蓄してあったため困らなかった。	くらし
320	小出	小作農家と養蚕で生計をたてていたが、小作料を払うと年間4俵の米しかなく、どこも貧しかった。震災時は周囲の者が食糧を持ち寄り飢えを凌いだ。	くらし
321	小出	地震後、余震が1週間位続いたので落ち着くまで竹藪に蚊帳を吊り、食糧を持ち寄って共同生活をした。	くらし
322	小出	味噌蔵の中のものは無事だったので、食糧には心配なかった。畑に行けばサツマイモ等が作ってあったので、それも食べた。	くらし
323	小出	後になって、村の人が鮭缶やミルク缶、乾パン等を配給してくれた。	くらし
324	小出	食糧は自給自足であったので困らなかったが、電気が止まってしまったので、精米所の機械が動かず自力で精米して使用した。電気は約一ヶ月停止していた。	くらし
325	小出	昔から竹藪は地割れしないという言い伝えがあったので、近隣の5軒で9月7日まで竹藪に避難していた。敷地内の庭にかまどや露天風呂を仮設して家事や入浴を行った。	くらし
326	国道1号	京浜方面の被害がひどく、田舎の身寄りをたよって来る人も乗り物がなく、国道を歩いてくる人と線路沿いに歩いて来る人との両者だった。	くらし
327	国道1号	震災後国道を西へくだる避難民はおびだしい数で、何日も続いた。道路はいっぱいだった。	くらし
328	国道1号	地震後列車の不通で郷里に帰る人の列が続き、夜になると線路に大勢の人が寝ていた。	くらし
329	小和田	東海道を通過する被災者に蒸かしたサツマイモなどを与えた。	くらし
330	十間坂	十間坂地域の青年団が警備及び救護にあたり東京横浜方面からの帰省者に空腹のためイモを蒸かして与えた。	くらし

	場所・地域	証言	証言要素
331	十間坂	東京の方の空が火事のため、夕焼けのように真っ赤であった。	くらし
332	十間坂	2、3日後は東京の方の空が真っ赤になっていた。	くらし
333	十間坂	第六天神社で軍医数名がけが人の手当てにあたっていると聞いている。	くらし
334	十間坂	地震後1週間くらいして、第六天神社に赤十字社が救援に来て、病気をしたものはそこで診てもらっていた。	くらし
335	十間坂	当時十間坂に住んでいた元軍医の吉沢大佐が負傷者の手当てを一手に引き受けられ、助かった。	くらし
336	松林	配給がなかった。	くらし
337	茅ヶ崎	東京方面から避難してきた人達を数十人外庭に蚊帳をつつて3日間宿泊させてあげた。食糧は炊き出しやイモを蒸かした。	くらし
338	茅ヶ崎	自宅前に仮設駅ができ平塚まで歩く人がいたので、むすびやふかした芋を売った。近くの土建屋さんでは氷水やサイダーを売り、他にライスカレーを売る人も出て、たいへんにぎわった。この業者は馬力で砂利を運んでいたが、このときは、人間を平塚まで運んだ	くらし
339	茅ヶ崎	先代のおばあさんが、井戸のそばには酸素が多いと言っていたので、地震が来て外へ飛び出し、井戸のそばに行った。	くらし
340	茅ヶ崎	食べ物近所の農家に買いに行けば、売ってくれた。	くらし
341	茅ヶ崎	救援物資(コンビーフ)はいただいた。	くらし
342	茅ヶ崎	1週間くらいたってから、米・じゃがいもなどの支給があった。	くらし
343	茅ヶ崎	1週間後、古着・毛布・缶詰などが配給になった。	くらし
344	茅ヶ崎	配給をもらいに役場へ行った。	くらし
345	茅ヶ崎	町役場から鮭缶を1軒に1個もらった。他は救援物資は来なかった。	くらし
346	茅ヶ崎	10軒に1軒の割でアメリカからの毛布をもらった。	くらし
347	茅ヶ崎	地震後3、4日経過してから、米は配給になった。	くらし
348	茅ヶ崎	1年生だけにアメリカからキャラメル1箱が3回配られた。	くらし
349	茅ヶ崎	日数が過ぎていて、いたんで食べられないものも多くあった。	くらし
350	茅ヶ崎	東京・横浜方面から帰宅する人に、物を食べさせてと頼まれたことがあった。	くらし
351	茅ヶ崎	女性はトイレに困り、柱を立ててトタンで囲み仮のトイレを造ったら、用を足す人の列ができた。	くらし
352	東海道線	現在の西運寺あたりが仮の駅になり列車が停まり客が乗降した。	くらし
353	東海道線	鳥井戸踏切の場所に仮停車場が設置され折り返し運転をしていた。	くらし
354	東海道線	平塚駅までは徒歩であった。	くらし
355	東海道線	東海道線は線路がゆがみ馬入橋鉄橋が壊れ中島に仮の駅ができ茅ヶ崎平塚の間は渡し舟が行き来していた。	くらし
356	東海道線	西運寺付近に停車場ができ1ヶ月以上たって中島まで線路が復旧し中島の神社北側に停車場が移り露店が出て祭りさわぎだった。	くらし
357	東海道線	馬入橋が壊れ相模川を舟で人や荷物を渡していた。その客を目当てにどんぶり屋ができ繁盛した。	くらし
358	東海道線	鉄道の線路は波をうって持ち上がってしまったので回復は1年以上かかったと記憶している。	くらし
359	東海道線	震災後列車は不通だったが一ヶ月以上して貨物列車が単線運転。	くらし
360	東海道線	地震の2ヶ月後鳥井戸の踏切まで線路が復旧した。	くらし
361	南湖	夕方、東の空が真っ赤だった。	くらし
362	南湖	海から東京の火災の煙が入道雲のように見えた。	くらし
363	南湖	てんのう山(八雲神社)へ避難し、食糧は各自持ち寄り自炊していた。あと、毛布を持ってきててんのう山で寝ていた。	くらし
364	西久保	井戸は、平常どおり使用できた。	くらし
365	西久保	井戸は、多少濁ったが飲めた。	くらし
366	西久保	井戸水は、2～3日濁っていた。	くらし
367	西久保	井戸の水が濁った家では布でこし、バケツにためておきました。飲料水はたらいおけなどに入れ(沈殿させて)、うわ水をすくい飲料水に使用していた。	くらし

	場所・地域	証言	証言要素
368	東海岸	食糧がなかったので周囲の畑の芋やナスを食べた。	くらし
369	東海岸	身重の人がいて、戸板を利用し、前へ送り進んで安全をはかった。	くらし
370	東海岸	食糧の保存をしていなかったので困った。闇で米を買った。	くらし
371	柳島	食糧については、家によっては、サツマイモ、麦、米があった。	くらし
372	南湖	療養所として知られていた南湖院では、入院患者は全員無事でしたが、職員に死者が出て、建物も一部被害を受けました。南湖地区では、震災のときに網や船を流されてしまった漁業従事者もいて、これを機会に漁業をやめた人もいた。	くらし 死傷者
373	柳島	大正12年の関東地方の大地震により柳島の井戸は大部分がこわれてしまいました。午後3時頃になりますと、のみ水が無いとさわぎ出しました。幸い私宅の井戸は無事と言えませんがどうやら助かりました。 地震の時は1米くらい水が吹き上げました。泥水でしたがバケツでくみ上げて置きましたところ、水が無い水が無いと大騒ぎになったのでそのバケツを見ましたら、上水だけでもすんでいたのをそれを使用し助かりました。水の話が村中に知れ渡り、水をもらいにくる女(ひと)、子供が桶やバケツを持って行列を作りました。一日中水くみの人で大変でした。奇跡的にたすかった井戸、村の大勢の人の命を救った井戸、私の家では今も記念の井戸として使用して居ます。	くらし 地殻変動
374	萩園	余震は絶え間なく繰り返し、何時また大地震がくるのかとの不安もあり、近所隣が寄り合って竹藪の中の生活を繰り返していた。「地震のときは竹藪の中に逃げろ」と昔からいわれていたが、それは、竹藪の中は竹の根が張りつめていて、地割れがする心配がないからである。 加えて朝鮮人襲撃の流言で、男たちは夜になると竹槍を持って、村の辻々に出来た番小屋の見張り番に出ていく。毎日戦々恐々であった。朝鮮人騒ぎは一種のデマであることがわかり、まもなく解除された。 農村地帯は、たまたま昼休みの時間帯で、火の気がなく出火しなかったが、東京・横浜の都会地では、昼食の支度の時間帯だったので、各地で火の手が上がり全域が火の海と化した。逃げ道を断たれた人々は、焼死し或いは溺死して酸鼻を極め、全くこの世の姿とは思えないありさまだったという。 一体この世はどうなるかと不安の念にかられた日々であったが、杳然とはしていられない。先ず、その日その日の生活の基地を整備することが優先である。 全半壊した建物は早急に取り壊すか修理して、家族の起居の場を作らなければならないが、材料がなかなか手に入らない。やむなく文字通り「竹の柱に茅の屋根」の掘立小屋を作った。その小屋を「バラック」といった。何時誰が言い出したかわからないが、当時としては珍しい呼び名であった。完全に復旧するまでには10年あまりかかった。その痛手は大きかった。	くらし デマ
375	下寺尾	傾いた家は隣人同士で助け合って復旧に努力し、全壊した家は後に大工職人が建て替えた。	復興
376	芹沢	植木屋が鳶職人となって復旧に携わっていたところもあるが、多くは身内や親戚・隣近所の人を手伝って再建に努力した。また、小出村尋常高等小学校の新校舎倒壊後の修理には、大野村(現相模原市大野)の青年団の20～30人が手弁当・無報酬で奉仕した。また、再建の際に新しい材料を購入して新築したが、翌年1月15日の地震で倒壊してしまった家がある。	復興
377	芹沢	田畑を担保にして、藤沢の勸業銀行から資金を借りた。	復興
378	茅ヶ崎	復興は近所の男の人達が協力して行ったがだいぶ日数がかかった。	復興
379	茅ヶ崎	物が全部壊れてしまい、下駄、箸等を作ることから始める生活であった。	復興
380	茅ヶ崎	通常の3倍の手間賃で、他の町から大工さんがきて建ててもらったが、ひどいもので、みんなから地震大工と言われていた。	復興
381	堤	大工職人が来ないため、傾いた家は筋交いをしてそのまま住んだり、隣近所で助け合って修理し、早い家で2～3ヶ月、遅い家でも1年位で復旧できた。傾いた家を元の位置に戻すため、隣近所で麒麟(ジャッキの類と思われる)を共同で購入した。	復興
382	行谷	一人の大工がいたので、その人の指揮により村中の人たちで各家の母屋や物置を修理したため、被災建物の再建も早かった。	復興
383	行谷	天皇陛下から恩賜金を1世帯当たり6円ずついただいたため、被災建物の再建も早かった。	復興
384	南湖	後片づけは近所の人たちが全員出て、順番に整理した	復興
385	本村	親戚が集まり家を直した。	復興

	場所・地域	証言	証言要素
386	共恵	茅ヶ崎小学校の仮設校舎を建てたのは、それは馬入の橋をかけ終わってからです。帰る前の日くらいです。建てる言うてもほんまに柱組んだだけですけどね。建てるだけ1棟やりました。5教室分くらいでしたかね。馬入の方を引き揚げて帰る前の日くらいに上から命令がありました。これ済んですぐに汽車に乗りました。東海道線で帰ったのではないかと思います。帰りは速かったですから。小学校の現場は水が引いた後のようで、じめじめしてましたな。仮設校舎の柱は基礎工事をするでなく、スコップで掘って掘っ建てでした。普通は木材にホゾをあけて組み込んだりするでしょう、そういうんじゃなくて、こういう具合にして継手にしたんですけどな。かすがいで上下広がらないようにとめて、そして筋交いというか補強をやりました。	復興
387	共恵	学校の瓦の片づけに行った。	復興